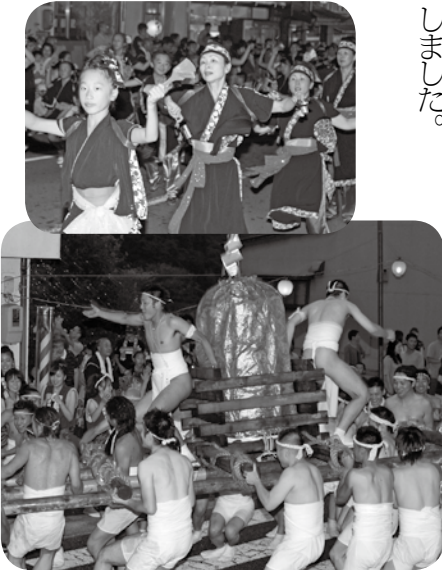


## 8月14日 飛騨小坂力持小太郎火まつり

今年で34回目となる飛騨小坂の夏の風物詩「飛騨小坂力持小太郎火まつり」が開催されました。オープニングは商工会館前での厳立太鼓に始まり、地元小中学生らによるダンスの披露がありました。

夕方になると、幻想的なちょうちん行列を先頭に、サラシにパッチ姿の男衆に担がれた勇壮な「仁王やぐら」2基のお練りと、子どもや女性らによる華やかな「よさこいおさか踊り」などが中心街で繰り広げられ、観客を魅了しました。力持小太郎火まつりは、若者小太郎が川から仁王像を引き上げて怪力を授かったという伝説にちなんだもの。小坂振興事務所などでは、縁起物の「力布」や「力餅」がお祭りの主役である「八神将」により投げられ、見物客らが歓声を上げながら奪い合い、お祭りは最高潮に達しました。



## 8月25日 馬瀬川花火大会



飛騨地域で行われる花火大会の中でも、最も大きな「尺玉」が呼び物の「馬瀬川花火大会」が、日本一おいしい鮎を育む、清流馬瀬川を舞台に開催されました。

メイン会場となった清流ふれあい会館では、二村正美実行委員長と野村市長が来場者とともにカウンタダウン。下呂市の炬火「清流と温泉の街下呂に集う絆の火」を点火して、山々に響きわたる爆音とともに「炎の大輪」が打ち上がりました。

今年の花火大会は、アニメキャラクターをかたどった「お子様企画」や、「花火シアター」など四部構成。フィナーレでは、過去最大の15箇所同時打ちによる大迫力の演出があり、県内外から訪れた観客らを魅了しました。

## ゲームデザイン部門 世界大会ベスト5の快挙

7月にオーストラリアで開催された「イマジンカップ2012」(米マイクロソフト社主催)に、秋原町出身の内木穂乃香さんのチーム(名古屋市トライデントコンピュータ専門学校)が出場し、ゲームデザイン部門で世界ベスト5入りの快挙を成し遂げました。出品されたゲームは、妖精が荒れ果てた大地を一筆書きの要領で歩いて行くと、美しい世界に変化していくといったパズルゲーム。内木さんは、ゲームに登場するキャラクターの絵や背景を担当。

世界大会を終えた内木さんは、「世界の学生と競い合うことができたことは、貴重な体験でした。日本のデザインが世界で認められ、うれしかった。今回の経験を生かし、私の絵が世界の人たちに見てもらえるように、活動していきたい。」と喜びの声を聞かせてくれました。



世界大会ベスト5のチームブロッサム  
写真左が内木穂乃香さん

(写真提供: 学校法人河合塾学園トライデントコンピュータ専門学校)

## 濃飛横断自動車道 ささゆりトンネル開通



7月24日、郡上市と中津川市を結ぶ濃飛横断自動車道の金山一下呂間（5.1キロ）が開通となり、「ささゆりトンネル」で式典が行われました。トンネルの全長は、岐阜県が管理する中では最長となる4877mにも及び、東海北陸自動車道郡上八幡ICから下呂温泉までの所要時間が20分短縮されました。

開通式典で古田知事は、「ぎふ清流国体までに開通できたことを喜んでいきます。このトンネルが地域の活性化に寄与し、皆さまに末永く愛されることを願います。」とあいさつ。来賓の皆さんとテープカットをしました。

また、記念行事では地元の中原小学校児童らとミナモトダンシングチームがダンスを披露、来場者みんなで開通を祝いました。【建設部・土木課】

## 下呂市更生保護女性の会 映画上映で被災地支援

下呂市更生保護女性の会（会長・下村和子さん）主催による映画「エクレールお菓子放浪記」が、8月23日から25日にかけて、市内3会場で計6回上映され、約1000名もの来場者が感動の映画を鑑賞しました。

映画の内容は、戦中・戦後を通して天涯孤独な身として必死で生き抜いた少年が主人公。映画の撮影は震災前の宮城県石巻市で行われたものです。

この映画に出演したエキストラや、映画制作を支えたボランティアの中には、震災により犠牲になった方もいるとのことでした。



今回の上映は、被災地の皆さんを励まそうと企画されたもので、上映による収益金の一部と会場が集まった募金が東日本大震災復興支援の義援金として送られました。【総務部・総務課】

## 手話通訳者の情報交換 第22回県内手話通訳者連絡会議

8月29日、星雲会館で「第22回県内手話通訳者連絡会議」が開催されました。

この会議は、市役所内に手話通訳者を配置している県内自治体13市と、県が設置している岐阜県聴覚障害者情報センターから手話通訳者と担当職員35名が参加し、各市から出された議題について取り組み状況などの意見交換を行いました。

その中で、手話通訳者を必要とする聴覚障がい者が救急搬送された場合の対応が、それぞれの市によって異なっていることが分かり、障がい者の安心安全のため、行政としての役割がますます重要となっていることを再確認しました。



【福祉部・社会福祉課】